

吉野復興大臣他の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年1月28日(日)13:00～13:05 於)福島県双葉町)

1. 伊澤町長 発言要旨

冒頭、何より最初に申し上げさせていただきたいのは、この中野地区復興産業拠点の起工式を行うに当たり、この地権者であります住民の皆様のご御理解と御協力があったからこそ、こういうふうな起工式を執り行うことができました。まずこのことに感謝を申し上げたいと思います。

双葉町にとっては、この出来事が復興具現化の元年である、そういうふうにご捉えておりますし、今後ますます双葉町が復興するために国、県、関係者の皆さんの御支援・御協力をいただきながら、取り組んでまいりたいと、そのように思っております。よろしくごお願いいたします。

2. 中島理事長 発言要旨

私どもURは、この双葉町の復興の第一歩となります中野地区の大変重要な事業を受託することになりました。これまで以上に町当局と協力・連携して、復興大臣に御支援いただきながら、事業を着実に進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくご願います。

3. 吉野復興大臣 発言要旨

今年の3月で原発事故、そして、大震災から丸7年を迎えます。私も7年前、今、思い出しますれば、今日のこの起工式を双葉町でできるということ、本当に感無量の気持ちでございます。この中野地区は「働く拠点」です。そして、特定復興再生拠点の除染が始まっておりますけれども、そこは「住む拠点」でございます。この働く拠点と住む拠点が、この双葉町にできる、もう今、着工しているわけですから、必ずできる。そして、多くの皆様方がふるさとである双葉に帰ってきてくれる。これが今日の日でございますので、本当に感無量の気持ちでございます。

以上です。

4. 質疑応答

(問) 伊澤町長にお伺いしたいのですが、改めまして、この中野地区、この再生というのがなされることの意義、また、そういうことで、町民に伝えたいメッセージというのがありましたら、お願いします。

(伊澤町長) まず震災から今年の3月で丸7年になるわけですがけれど

も、震災以降、全然、双葉町の復興の姿を見せることができなかつたというのが、非常に自分としましては忸怩たる思いでありました。幸いこの起工式をスタートに、双葉町の復興の姿を実際に町民の皆さんに見ていただけるような状況になってきたということで、町民の皆さんにいましばらく待っていただきたいと、そういうふうな思いであります。

(問) 町長に伺いたいのですけれども、URに期待するところはどんなところでしょうか。

(伊澤町長) URに期待するところは、全国各地でいろいろな事業に関係しているということで、まず全国でうまくいった事業、そうでなかったものも恐らくあろうかと思えます。そういったものを全て集約をして、すばらしいこの事業の取組に寄与していただければありがたいなというふうに思っております。

(問) 町長、間もなく7年ですけれども、7年でやっと起工式を迎えました。長かったですか。短かったですか。

(伊澤町長) これは何とも言えませんが、正直、この震災以降、私たちも大分町内に入らせてもらって、放射線の問題であったり、家の荒廃であったり、田畑の荒廃であったり、全てを見せていただきました。そういったものを考えたときに、果たして、将来、双葉町を復興・再生することができるのかというのは常に疑問に思っていました。正直、よくこの7年間、町民の皆さんにとっては長いと思えますけれども、我々にとってはこの現場を知るものにとっては、何とかここまでようやく来たなという気持ちです

(以 上)